

令和3年

自己点検

及び

自己評価報告書

学校法人つくば文化学園

日本つくば国際語学院

自己点検・自己評価項目

実施責任者
日本つくば国際語学院
教務主任 杉本 和昭

評価基準

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取組を検討中 1:改善が必要

(1) 教育理念・目的等

評価項目	評価
学校の理念・目標は定められているか	5
育成人材像・特色などが明確になっているか	5
理念に基づいた人材教育が行われているか	4
理念と教育目標が職員や生徒・保護者に周知されているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
本校の理念は「日本語を楽しく学び、日本を好きになってもらおう」であり、明確化されている。新しい職員も加わったため、今後の課題としては理念と目標の共有である。現在、その教育の最中であるため、総括は来年度としたい。生徒の保護者に対しては出席や授業態度に関して報告は行っている。しかし完璧ではなく、より円滑に進めていきたいと考えている。	

(2) 学校運営

評価項目	評価
運営方針は定められ、職員に周知されていて実行しているか	5
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
中長期的に学校の予算・収支計画は有効かつ妥当か	3
運営組織や意志決定機能が確立され、効率的なものになっているか	4
人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能は整備されているか	4
危機管理体制及び施設・設備は教育上の必要性和学生の安全確保に十分対応できる よう学校教育法に基づき整備されているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
日本後教育機関の告示基準をもとに、本部長が中心となり適切な運営を行っている。運営方針は本部長が本社と定期的に打ち合わせしながら進めている。新型コロナウイルスの影響で学生の入国者数と入国時期は不透明なため運営方針や経営目標を立てにくい状況であり、評価としてはほど	

ちらともいえない。学生の安全確保に関しては学校法人と告示校の基準に適合している。

(3) 教職員

評価項目	評価
教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
教育目標を達成するための取り組みがされているか	5
教職員の評価を行っているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
教務主任と常勤講師が中心となり、非常勤講師と連携しながら目標達成に日々取り組んでいる。教職員の大幅な変更もなく、教育理念は十分に浸透・理解されている。達成するための取り組みの共有は一覧で常に確認できる状態になっている。教職員評価に関しては、定期的な授業見学と面談を実施しているものの、新型コロナウイルスの影響で細部まで実施ができなかった。研修も同様で、より一層の充実が求められる。	

(4) 教育活動

評価項目	評価
進学のためのカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実践されているか	4
学習理解の到達度の確認はされていて成績評価は適切か	5
教育目標に適合した教材や機器が使用されているか	4
各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	5
目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	4
現状と具体的な取り組み及び課題について	
進学コースとして教務主任と常勤講師が協力し、カリキュラムの作成や教育方法について工夫、相談をしている。本年は対面とオンライン授業の切り替えや学生の対応などで、細かい課題は散見されたが、進路の結果と外部の試験（日本語能力試等）の結果はよく、評価はできる。今後は学生のニーズの多様化に対応しきれるかが課題だ。昨年以上に教務がお互いに連携し、教育活動の質の向上を行っていく。	

(5) 学生支援

評価項目	評価
進学に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5
学生寮、学生の生活環境への支援は行われているか	5
経費支弁者や、個人で学生を紹介してくれた人と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
進学に関しては卒業した学生が少なく、学生1人1人に対する支援の時間は十分にあった。しかし、本年は新型コロナウイルスのため様々な行動制限もあった。その中で、オンラインによる説明会への参加など新しい取り組みは有効に機能した。定期的にオリエンテーションを実施し、出席率、生活上のルール、アルバイト関連など基本的なものを中心に、学生に十分伝わるよう繰り返し説明も行った。健康管理においては学内で健康診断を実施。保健室も常に利用できる状態にしている。経済的支援としては、国からの給付金をはじめ、個別面談を重ねるなどして対応している。経費支弁者との連携や卒業生への支援体制は、今後改善をしていきたいと思う。	

(6) 学生募集と受け入れ

評価項目	評価
学生の受け入れ方針は定まっているか	4
学生募集活動は適切に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正しく伝えられているか	4
入学選考は、適正かつ公平は基準に基づき行われているか	5
学生定員設定は適正及び在籍者数になっているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
学生の受け入れについて、これまでの受け入れ実績と結果をもとに、対象国をある程度決めて募集活動を行っていくこととした。現地のエージェントと定期的な面談を行い、入学後の学生の状況を伝えることは必要で、今後改善していかなければならない。新型コロナウイルスの影響で、従来のような募集活動ができず、オンラインが中心になった。よって、学生募集に関する評価は来年に改めて行うものとする。定員と在籍者の管理に問題はない。	

(7) 在籍管理と生活指導

評価項目	評価
学生の生活指導責任者及び入管事務担当者が特定され、学生に周知されているか	5
我が国の法令を遵守させるための指導は行われているか	5
学生が母国と日本の文化の違いを理解するための指導やアドバイスが行われているか	4
入国・在留関係の管理や指導と支援が適切に行われているか	5
常に学生の最新情報を把握しているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
学期ごとに事務と教務が合同でオリエンテーションを行い、生活指導の徹底を図っている。また、校内で警察講話を実施し、日本の法律を始め交通ルールや生活全般に関する指導も行っている。本校の学生は多国籍であるため、学生が理解できる言語での説明には限界があり、対応を考える必要がある。学生の最新情報に関してはSNSや面談を通して最新情報の把握に努めているが、より一層の把握が必要である。	

(8) 安全・危機管理

評価項目	評価
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
感染症発生防止・発生時の措置を定めているか	5
防災に対する体制は整備されているか	4
災害時に対する避難訓練を定期的実施しているか	3
災害時の避難経路、方法、場所を定めているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
防災に対する備えは十分でない。幸いにも立地に恵まれ、今まで大きな災害に遭っていないが、早急に対策を施す必要がある。まずは避難訓練を実施し、災害時の避難場所の確認、また自宅から避難場所までのルートを確認させなくてはならない。今後、入国緩和にともない、学生寮の数も増えてくる。それによって今後の安全・危機管理体制の仕方も変わってくるだろう。災害に備え備品の購入と災害発生時の職員の役割をまとめ、学生に感染症に対する対応も行い、学生にも周知徹底している。	

(9) 財務

評 価 項 目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
財務について会計監査が適切に行われているか	5
財務情報公開の体制整備はできているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
財務関連については母体である学校法人ホームページ上に公開し、適切に管理・整備されている。	

(10) 法令等の遵守

評 価 項 目	評価
法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己点検・自己評価結果を公開しているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
茨城県、学校法人、法務省の運営基準をもとに、適正な運営を行った結果、適正校を維持している。個人情報の取り扱いには職員会議などで十分注意するよう確認している。自己点検・自己評価の公開に関してはホームページ上で公開している。	

(11) 社会貢献

評 価 項 目	評価
学生の教育資源や施設を活用した社会貢献に努めているか	5
学生のボランティア活動を奨励・支援に努めているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
ボランティア活動や社会貢献は非常に大切なことではあるが、新型コロナウイルスの影響で様々な制限を受けた。もし希望者がいれば適宜対応という形をとっている。	

(12) 総括

昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けた年であったといえる。学生管理の面からは、1人も感染者を出さなかったことは非常に評価できる。

学習面においては、茨城県の感染状況がそれほどひどくなかったため、対面授業を中心に行った。学生は希望の進学先あるいは学習期間の延長措置をとった。進学先に関しては昨年以上の結果が出せたことは、教育面において評価できるだろう。その一方で、ICT環境の整備は滞ったままである。ITの進歩とともに、新しい時代の教育に柔軟に対応していく体制の構築は急務だ。

母国で入国を待ち望んでいる学生たちの入国緩和の道筋が見えないため、先の見通しがたてられないのは悩ましい問題である。政府の対応に対して、1つの日本語学校としてできることは限られる。引き続き待機中の学生と緊密に連絡をとりあいながら、今できることを進めていくほかはない。

コロナ禍という厳しい状況を乗り越えるべく、職員が一丸となって対応してきた結果、本年も適正校を維持することができた。今後も学校法人の日本語学校として質の向上をはかっていく所存である。